

質疑及び一般質問

令和4年9月26日、28日、29日に開催された質疑及び一般質問では、次の議員が質問を行いました。

質疑及び一般質問の映像はこちら



○質疑及び一般質問の中から一部を掲載します。

9月26日(月)

◎本県の治安情勢と組織運営について



自由民主党 伊藤 清 (安中市)

Q 県警察本部長就任に当たり、群馬県の治安情勢をどのように捉えているか。また、県民の期待に応えるため、どのような組織運営を行う考えか伺います。

A 特殊詐欺事件や児童虐待事案、サイバー空間における犯罪の被害等が後を絶たず、また、高齢者が関わる交通事故の比率も年々増加傾向にあるなど、予断を許さない状況であると認識しています。来年には本県でもG7デジタル・技術大臣会合の開催が予定されており、平素から、テロに対する備えが重要です。数々の諸問題に対し、県警察一丸となって取り組み、「安心安全を誇れる群馬県の実現」へ向け、警察活動を推進してまいります。

◎県内企業の再生可能エネルギー導入支援について



リベラル群馬 後藤 克己 (高崎市)

Q 県内企業の再生可能エネルギー導入に向け、どのような支援を行うのか、特に自家消費型の設備導入など、企業の取組をどのように支援していくのか伺います。

A 自家消費型を含めた再生可能エネルギー設備導入のための県内企業向け支援制度として、長期・低利の制度融資や初期費用0円事業、太陽光発電設備等の共同購入事業を順次開始しております。今後も、国や他県の制度を参考にしながら、更なる取組を検討し、県内企業の脱炭素化の取組を後押ししていきたいと考えています。

◎今後の若者の政治参加の取組について



自由民主党 大和 勲 (伊勢崎市)

Q 今後どのようにして、更なる若者の政治参加を図るのか知事の思いを伺います。

A 今年度は、(株)笑下村塾と連携した親しみやすい選挙授業の実施など、新たな取組を行っています。今年7月に行われた参議院選挙では、本県の10代の投票率は前回から大きく上昇し、全国平均と比べても4.44ポイント上回る良好な結果となり、これらの新しい取組が大きく貢献したと実感しています。今後も、県議会での取組、選挙管理委員会での取組により相乗効果が上がるよう、県を挙げて若者の政治参加を推進してまいります。



県内高校での「笑える！政治教育ショー」の様子

◎県立赤城公園の活性化に向けた基本構想について



令明 井田 泰彦 (桐生市)

Q パブリックコメントを受けて、基本構想案の調整作業を行っていますが、進捗状況と、覚満淵と小沼の施設整備の方向性について伺います。

A 県立赤城公園活性化基本構想案については、自然環境の保全を求める意見など、多くの意見をいただき、現在、見直しの作業を行っています。覚満淵と小沼については、自然環境の保全・保護を図るエリアに位置づける方向で検討しています。手つかずの自然を守りながら赤城山頂エリア全体の活性化を実現していきたいと考えています。

9月28日(水)

◎馬事公苑について



自由民主党 安孫子 哲 (前橋市)

Q 馬事公苑(前橋市)の利用拡大のため、畜産試験場の飼料畑を有効活用し、乗馬等に活用できるように一体的に整備すべきと考えますが、いかがでしょうか。

A 現在、飼料畑は、飼料作物の試験研究と、畜産試験場の牛のエサを生産することに活用され、家畜防疫等の観点から立ち入りを禁止しています。飼料作物の確保や防疫等の課題解決が前提ですが、畜産試験場を含めた、馬事公苑の魅力向上と、より有効的な活用方法について、地元関係者の意見を踏まえ、サービス向上に努めていきたいと考えています。



馬事公苑

◎リトルベビーハンドブックについて



公明党 薬丸 潔 (太田市)

Q 本定例会に上程された補正予算案において、リトルベビーハンドブック作成の予算を計上した知事の思いを伺います。

A これまでの議会で何度も提起され、課題として捉えていました。先日、小さく産まれた子どものお母さん方とお会いし、切実な思いを伺いました。ハンドブックを手にすることで、救われる御家族がいるのであれば、その力になりたいと願い、本定例会に上程しました。子どもの生命を守り、誰一人取り残すことなくすべての子どもやその家族を支援することが、県の使命であると考えています。

◎産後ケア事業における県の取組について



自由民主党 大林 裕子 (北群馬郡)

Q 産後ケア事業を必要とする方が、よりケアを受けやすくなるよう、県として支援が必要と考えますがいかがでしょうか。

A 産後ケア事業は、市町村において、乳房のケアや個別の状況に応じた育児指導、傾聴等の心理的支援を行うものです。地域社会の子育て機能を補う上で重要な取組であることから、県としては、産後間もない御家庭に広く利用していただけるように、産後ケア事業の重要性の認識を促すとともに、周知方法を提案するなどして、市町村の取組を支援します。

◎豚熱に係る野生イノシシ対策について



自由民主党 相沢 崇文 (桐生市)

Q 豚熱の発生要因の一つである野生イノシシへの対策について、現在の取組と今後の対策について伺います。

A 出没データの提供や捕獲奨励金の交付により、市町村における捕獲を支援しています。また、イノシシの経口ワクチン散布エリアの拡大、移動を抑制するための河川内の緩衝帯整備等に取り組んでいます。新たな対策として、夜間撮影が可能なドローン、イノシシを群れで捕獲できる「ネット式囲い罠」の導入を計画しています。養豚業を豚熱から守るため、全力で取り組んでまいります。

9月29日(木)

◎知事の考える工業都市太田の未来について



自由民主党 秋山 健太郎 (太田市)

Q 群馬県が発展する中で、工業都市太田の位置付けについて、知事がどのように考えているか伺います。

A 太田市には、全国屈指の工業都市として、本県産業を牽引していただいています。今後、ものづくり産業を中心とした産業構造から、高付加価値な産業に発展させていくため、有識者からなる「ぐんま未来産業アドバイザーボード」を設置し、本県産業の未来を検討します。新たな時代に向けて継続発展していくための道筋を示し、本県の将来を見据えた産業構造転換を実現してまいります。

◎今後の子どもアドボカシー(※)制度の導入について



リベラル群馬 鈴木 敦子 (高崎市)

Q 子どもアドボカシー制度の導入について、県はどのような認識であるのか伺います。

A 子どもの意見を聴く機会や子どもが自ら意見を述べる機会の確保、その他子どもの権利を尊重するための取組を推進することは、県の責務です。今後、人材の養成や確保の方策を含む「意見表明等支援事業」の詳細等が、国から示される予定となっており、県としては、国の動向や先進事例を注視しつつ、まずは、一時保護所に入所している子どもが意見表明しやすい環境整備やその権利を守るための新たな仕組みづくりを検討してまいります。

(※)子どもアドボカシー…子どもの声を聴き、子どもが意見を表明する支援を行う活動

◎眼の紫外線対策について



自由民主党 牛木 義 (甘楽郡)

Q 屋外スポーツを行っている県民に対して、眼の紫外線対策の理解促進を図ることは重要なことと考えますが、いかがでしょうか。

A 紫外線の浴び過ぎは、日焼けなどの原因になるほか、皮膚がんや白内障などを引き起こす恐れが指摘されています。プレー時に激しい接触を伴うサッカー等の競技や、個人のスタイルにも配慮しつつ、サングラスの着用など適切な対策がとられることが必要であるため、スポーツ関係者に対し、紫外線の性質や対策などについて理解が進むよう、会議や研修会などの場を通じ周知に努めてまいります。

◎技術情報の流出防止に向けた取組について



自由民主党 久保田 順一郎 (邑楽郡)

Q 本年5月に国の経済安全保障推進法が成立しましたが、ものづくりが盛んな本県において特に重要となる県内企業が有する技術情報の流出防止に向けた県の取組について伺います。

A デジタル化により、企業の技術等が、インターネットを通じて世界とつながる機会が確実に増加しています。本県では、群馬県警察の協力も得て、県内ものづくり企業を対象に、サイバー攻撃の現状やリスク、技術流出防止の重要性や対策のポイントを紹介するセミナーを開催しました。引き続き、優れた技術の流出防止にしっかりと取り組んでまいります。